

決勝リーグ

7 / 28

第2試合

男子八

堀江 61

$$\begin{pmatrix} 15 - 06 \\ 08 - 11 \\ 14 - 04 \\ 24 - 06 \end{pmatrix}$$

27枚方四

堀江、枚方四。堀江がオールコートマンツ、枚方四はハーフコートマンツとゾーンを使い分ける形でスタート。序盤、両チーム共、ディフェンスにがんばりを見せるも堀江はゴール下、3Pミドルシュートなどで、確実に得点。対する枚方四はボール運びのミスなどで波に乗れず苦しい立ち上がり。1Qを終え、6 - 15とする。

2Qに入り枚方四はのゾーンDFが機能しだし、堀江の得点が止まる。枚方四はのカットイン、3P、ミドルシュートなどで追い上げをみせ前半を終え23 - 17と堀江6点リードで折り返す。

後半に入り堀江はオールコートゾーンプレスに切り替え激しいプレッシャーをかける。枚方四はシュート前のミスを連発してしまい、逆に堀江は枚方四のゾーンをショートコーナーからの合わせで、のゴール下、の3Pなどで点差を広げ、3Q終了で37 - 21とする。

4Qも堀江はゾーンプレスで、枚方四に残り1分半まで得点を許さず、ディフェンスからの速攻で一方向的に試合を進め、枚方四は、最後までオフェンスの形をつくれなかった。決勝リーグ第1試合は、堀江が61 - 27で勝利し、近畿大会へ一歩近づいた。

男子二

東淀 55

$$\begin{pmatrix} 14 - 15 \\ 14 - 13 \\ 11 - 15 \\ 16 - 17 \end{pmatrix}$$

60盾津

東淀、盾津。両チームともハーフコートマンツマンディフェンスでスタート。

立ち上がり盾津はのミドルシュート、の速攻の連続ポイントなど、開始1分半で、8点リードする。対する東淀は始めはミスが多かったものの、徐々に自分たちのペースを取り戻し、1Qの終了時には追いつき14 - 15とする。

2Qに入ってもお互い速いペースのバスケットが続く。東淀はを軸にが得点し、盾津はフリースクリーンを軸にオフェンスを展開する。お互いに点の取り合いから一歩も引かず、前半を28 - 28の同点で折り返す。

後半に入っても両チームの速いペースは変わらない。東淀はのドライブ、のリバウンドシュート、からへのアシストなどで、得点。盾津はのバスケットカウント、の3Pで応戦。3Qを39 - 43で終える。

4Qになるとゲームは急展開。まず、盾津がの速攻、の3Pで9点リードする。しかし、が5ファールで退場すると東淀が反撃。の速攻、のドライブ、のスチールからの得点で51 - 50と逆転する。しかし、ここから流れがもう一度、盾津に傾く。

のドライブ、最後はの連続得点で、東淀を振り切り55 - 60で盾津が勝利し、近畿大会出場への大きな1勝を手にした。

7 / 2 9

第2試合

男子

堀江 63 $\left(\begin{array}{l} 19 - 08 \\ 10 - 14 \\ 17 - 13 \\ 17 - 19 \end{array} \right)$ 54 東 淀

1Q堀江、東淀で、両者ともハーフコートマンツーマンでゲームスタート。

立ち上がり堀江はの3Pで流れをつかみ、その後もを中心に得点を重ねていく。東淀は堀江の粘り強いディフェンスに苦しみ、なかなかリズムをつかめない。

2Q堀江はのインサイドを中心にオフェンスを組み立てるが、東淀のディフェンスにより得点できない。東淀はが得点を重ね、19 - 15で堀江がタイムアウト。その後一進一退の攻防が続くが、終了間際、堀江のの2P、の3Pで29 - 22とし、2Q終了。

3Q堀江はディフェンスをオールコートの1 - 3 - 1に変える。東淀は、の3Pで応戦するが、ディフェンスのプレッシャーに苦しみ、思うように攻め崩せない。対する堀江はの3P、ジャンプシュート、の3Pで再び差を広げていく。

4Q両チーム思うように得点できない。そんな中、堀江はのドライブインがバスケットカウントとなり、それを皮切りにの連続速攻で点差を広げ、55 - 38で東淀がタイムアウト。

残り時間が少なくなる中、東淀はの3Pで差を詰めるも、堀江はあわてず、が着実に得点し、63 - 54で試合終了。この一勝で堀江は、近畿大会出場に王手をかけた。

男子

枚方四 44 $\left(\begin{array}{l} 15 - 15 \\ 09 - 10 \\ 11 - 06 \\ 09 - 12 \end{array} \right)$ 43 盾 津

枚方四、盾津で、両チームともハーフマンツーマンディフェンスでスタート。盾津は、フレアスクリーンからの1対1を狙うが、枚方四に対応され、攻め手がなくなり、のミドルシュートに頼る展開となる。一方、枚方四はの2本の3P、のドライブなどで、出だしをリードするが、1Qの終わりには、盾津の3Pなどで、追いつかれ15対15の同点で終わる。

2Qは両チーム共にハーフコートマンツーマンで相手の攻めを上手く対応して守り、両チームとも得点が伸びない。フリースローも決められず、苦しい展開が続く。枚方四は、の1on1、盾津はの1on1、の3Pが目をついた。

後半、前半と同じスタートメンバーで盾津は、ハーフマンツーマン、枚方四は、オールコートマンツーマンで始まる。盾津はボール運びのミスが続き苦しみ、得点が伸びない。一方、枚方四はオフェンスリバウンドをがんばり、攻撃時間をのばす。一進一退が続いたが、35 - 31枚方四リードで終わる。

4Qに入り盾津はの2本の3Pで流れをつかみ、残り5分で逆転。しかし、枚方四もディフェンスを2 - 3に変えるなど粘り、シーソーゲームとなる。残り22秒で、枚方四が1点リードでタイムアウト。そのまま逃げ切り、1勝1敗とした。

第4試合

男子

盾 津 4 3	$\left(\begin{array}{l} 09 - 20 \\ 12 - 17 \\ 08 - 14 \\ 14 - 19 \end{array} \right)$	7 0	堀 江
---------	--	-----	-----

両チームマンツースタート。出だし動きが堅く、トラベリング、ミスパス等が続くが、堀江のインサイドでゲームが動き出す。盾津は持ち味の突破力で崩そうとするが堀江のディフェンスがなかなか崩せない。徐々に堀江のインサイドのコンビプレイが機能し始め、20 - 9堀江リードで1Q終了する。

2Q堀江のジャンプシュート、ドライブでリズムをつかみ、インサイドでコツコツ加点し、26 - 9としたところで盾津タイムアウトを取り、ディフェンスをゾーンに変えるが、そこから堀江の足が動き出し、ブレイクで加点。32 - 11にリードを広げ、盾津たまたま2回目のタイムアウト。得点が伸びない盾津はフレアスクリーンからハイローや、の3Pで追撃しだし、31 - 21で、前半終了。

3Q堀江のポストプレイでスタート。盾津は1on1を仕掛けるがミスが多く、得点が詰まらない。フルコートでのプレスも堀江にかわされ、たまたまタイムアウト。その後 の3Pで応戦するが堀江がリバウンドに粘り、51 - 29で3Q終了。

4Q盾津の1on1でスタート。ディフェンスを強める。しかし、堀江は動じることなく、リバウンド、ゴール下を支配し、さらに のジャンプシュート、ドライブ、ゴール下で加点。流れを譲らず、快勝。昨年の借りを返した。課題を修正し、近畿大会での活躍を期待したい。

男子

東 淀 4 4	$\left(\begin{array}{l} 10 - 09 \\ 10 - 11 \\ 11 - 19 \\ 13 - 09 \end{array} \right)$	4 8	枚 方 四
---------	--	-----	-------

東淀、枚方四でスタート。ゲーム開始すぐ、東淀のミドルシュートで点を取るが、両チームともハーフマンツースタートでゴールを守り、お互い点がなかなか決まらず、1Q残り3分で2 - 0のままであったが、東淀 バasketカウント。枚方四の3Pでオフェンスのリズムをつかみ、10 - 9東淀リードで1Q終了。

2Qに入って、東淀はの連続3P、枚方四の3P、最後はのブザービーターの3Pで20 - 20の同点で前半終了。

後半に入っても両チームともハーフマンツースタートし、枚方四の連続3Pやドライブからのアシストで東淀はタイムアウトを取るが、点差は縮まらず、39 - 31で3Q終了。

4Qに入って、東淀は、連続3Pを決め、2点差まで、縮めるが、枚方四は落ち着いた攻撃や、しっかりとディフェンスで対抗し、また、東淀のファウルが重なって得たフリースローも確実に決めていき、近畿大会の出場を決めた。